

令和4年度第2回「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動」に係る担当者会議
 兼 奈良県コミュニティ・スクール研修会 実施報告

《日 時》 令和4年11月28日(月)

《場 所》 奈良県産業会館

《参加者》 ○第1部

学校運営協議会を未設置の各市町村立学校園(組合立含む)の管理職、地域連携担当教員
 各市町村教育委員会担当者等

○第2部

各市町村教育委員会担当者等

参加者合計 119名

《内 容》

◎第1部

◆実践報告 「地域とともに育む児童像を共有した上で取り組む地域学校協働活動 -コミュニティ・スクール導入により見えてきたもの-」
 生駒市立壺分小学校 校長 城野 聖一



【実践報告の概要】

- ・学校運営協議会は、地域の方が司会進行を担い、運営している。
- ・協議の中で、「学校のめざすものを、『あいさつのできる子』など、より具体化したほうがよい。」「地域と学校がともにめざす児童像に関わる教育活動がどれだけ進められているか検証できる内容のアンケートにする必要がある。」など当事者意識をもった意見をいただいている。
- ・コミュニティ・スクールになったことで、「地域の方々との児童の話ができる喜び」、「地域の方々に児童の成長をともに喜んでもらえること」、「学校全体の活性化」、「児童の地域の担い手としての自覚」などを実感することができている。

◆講演 「こどものために みんなで つなぐ 地域とともにある学校 コミュニティ・スクール -学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進に向け-

文部科学省CSマイスター(京都光華女子大学 准教授) 西 孝一郎

【講演の概要】

- ・「新しい組織」を無理して作るのではなく、「既存の組織を再構成する」という考えのもと、協働体制の構築もふまえて学校運営協議会を設置することも考えられる。
- ・学校運営協議会の重要な役割に、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があるが、決裁型の承認ではなく、委員が当事者意識をもつことによる、話し合い型の承認をしていただくことが重要である。
- ・活動に関わる人たちが、「どんな子どもに育てたいのか」という目標を共有した活動を行っていくことで、「支援」ではなく「協働」した活動を行うことができる。
- ・熟議の目的を明確にし、「今と未来の子どもたちのために」という視点により前向きなテーマで熟議を行うことで、地域の主体性も生まれてくる。
- ・コミュニティ・スクールを、「これからの時代を生きる子供たちのために」、「社会総掛かりで子供たちを育てる体制を作るために」、「連携・協働体制の構築のために」導入するという根幹の部分については、ぶれることなく、強く意識をもっていただきたい。

※講師の意向をふまえ、「こども、子ども、子供」の表記をしている。

◎第2部

◆行政説明 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について
 令和5年度 国の補助事業の概要について
 令和4年度「学校・地域パートナーシップ事業」補助金の適正な執行について
 人権・地域教育課 指導主事

《参加者の感想》

- ・実際の事例を聞き、地域が一体となって学校のため、また、子どもたちのために活動しているというところがすばらしいと思いました。自校の状況と照らし合わせ、取り入れられる部分は取り入れていきたいと感じました。
- ・コミュニティ・スクールの意義や学校の方針を地域の方々と共に共有し、主体的に子どものために知恵を出すことで、実践していく仕組みについての理解が深まりました。
- ・コミュニティ・スクールの目的や進め方などの全体像が理解できました。

今後「コミュニティ・スクール」の導入や充実に活用できるものであった

